

彙報

●史學 研究會

例會 二月十二日午後一時より京都帝國大學樂友會館階上にて開催左の講演あり午後五時閉會す、當日は林學士所藏の西洋知名文學者の筆蹟に濱田博士講演關係の遺物を多數陳列して來會者の展觀に供せり。

一、ゲーテの古代研究に就て 文學士 林 久男君

ゲーテは伊太利旅行中ホーマーの詩を誦し希臘東洋の古代を研究して自己の作物に應用せむことを期し三十七歳より四十歳代の爛熟せる識見と情操とを以て豫々愛せる中世趣味を一蹴し造形遺物を研究鑑賞して古代趣味を養ひたりベロナの圓形舞臺を觀て民衆互に我自ら樂しむるものなりと叫び羅馬府の不明門を見てイオニヤドリヤ式の建築に心酔しテチアン作のマリヤ昇天圖バラデオの建築に感服し、ベニスにて初めて海を見て驚くと共にベニスの中世風なるを惡みたるが如く彼の伊太利旅行は決し

て娛樂の旅行に非ずして彼の内面的に大變化を與へたるもの此の旅行以後の作品に大影響を與へしものなり。

一、出雲上代玉作の遺物に遺跡

文學博士 濱田 耕作君

吾が上代に於ける主用なる遺物なる玉類に就いて唯一の遺跡を看做されたる出雲玉造及附近の遺物遺跡を詳述し現今の攻玉法を究めて古代のそれに及ぼし次で玉の性質に加工を本邦上代の遺物によつて考證し、更らに硬玉製勾玉の比重測定を試みて其の原石の寧ろ南方産なるを明かにし、璧玉を主用する玉造は硬玉を摸して所産せられたる第二次的のものとし、尙ほ南鮮古墳發見の硬玉製勾玉に就て論考せられたり。

●讀 史 會

例會 一月二十八日午後六時半より樂友會館五號室に於て開催。三浦天沼兩教授等二十名來會、左記卒業論文の梗概發表及び天沼教授の講演あり十時散會す。

家定夫人天璋院とその環境

飯沼 守麿君

女性の價值を女らしさに求めて家定夫人天璋院を取扱

ひ其聰明なりし點を明にし、鹿兒島藩が高崎くづれ等の問題の爲危機に瀕せし事情を見、轉じて夫人入興問題が政略的色彩を帯び一般世人の疑惑の的たりし事を説き、更に將軍家定の精神的肉體的不健全の故に家庭人として不幸なりしにて和宮に比較し繼嗣問題に於て一橋と紀伊二家の争ひにおける夫人の地位を觀、天璋院となりて後初めて女性としての美しさを現せりと説く。

塵介集の研究

木島 誠三君

先づこの書の編纂されし時代を考へ、伊達家の當時の事情を見てその統一策に基き作られしものなるを論じ戰國時代諸國法制と比較して豊富なる内容の故に史上に重要な點を説き塵介の名の起源を推し貞永式目と比較しては主にそれに據れるも亦相異の點ありてその原因を時代文化に求め其内容の特に國際法規に近代的色彩を帶ぶるものあるを指摘せり。

近世に於ける復古的精神の發達

肥後 和男君

近世の持つ意義を復古思想に見んとしてその人文的傾向の點に於て歐の文藝復興期に比し、復古思想の中心を

神道に求めて桃山時代の人を神に祭る點に中世のそれと區別し、其古代人の思想と通ずるものあるを觀、徳川時代の歴史研究が古代思想を養ふ源となり神道に於ても古代研究盛に行はれ爲に古に反るを正道とする儒教と共通せりて神儒一致論の生れし所以をあきづけ、神道を中心とする復古運動が日本純化の運動となる點を見てこれが日本國民の自覺を導けりと説く。

石塔婆の二三について

工學博士 天沼 俊一君

豊後阿波其他に在る石塔・板碑について幻燈によりて一々その特長を指示し説明せらる。その二三を擧ぐれば、豊後國東に在る寶篋印塔は弘安六年の銘あり高七尺三重臺座蓮座塔身九輪あり塔身は茶壺の如く相輪には必ず火炎あり、この種のもの餘り他地方に見ずてこの型を國東塔型と名付けらる。國東久浦町に在る板碑形の石に五輪を刻せるものには塔と板碑の關係を考へ得べく、徳島市大瀧山に在る地藏と五輪を兩面に刻出せるは稀らしきものなり云々。

例會 二月十八日午後六時半より開催。三浦教授中村諳

師等二十四名出席、左記卒業論文の梗概發表及び德重學士の講演あり、十時散會す。猶前回の例會に於て偶眼疾を發して入院せる柴田幹事に慰問状をおくることを決議し翌日幹事は病床を訪て贈呈せり。

我國資本主義の發達に就て

山根徳太郎君

社會經濟が戰を epoch として發達せる事に注目して戰國時代に於ける資本主義發展の有様を見んじし、先づそれ以前に於ける經濟組織及び活動を觀察して本論に入り戰國時代資本主義の現れこして産業商業都市の三者を考へ城下町發達の有様を朝倉敏景十七箇條によつて窺ひ一般領主の都市經營の有様をのべて新都市の發達が新精神を醸成し三者共同して資本主義發達を來せりこ説き、更に江戸時代の經濟史上に占むる位置にも言及せり。

上代牧馬考

佐藤 虎雄君

文献を考古學的遺物兩方面より上代牧馬文化を研究せんじし石器時代遺物中に見ゆる馬骨により馬の占めし地位を考へて魏志の記事を批判し、古墳に發見さるゝ土馬々具等によりて古代人の精神生活を窺ひ、馬具製作の美

術的考察に於ては佛師鞍作鳥の名によりてその佛教美術に於ける地位を關聯せしめ、轉じて文獻上に牧馬の事實を求めて牧場分布を現存の地名にて探り、飼部の地位の高下によつて牧馬の盛衰を見、馬の使用法の文明程度により異なることを述べて馬の上代文化の上に占めし地位に及ぶ。

舊鹿兒島藩の軍制及軍術

文學士 德重 淺吉君

戰國時代榮えし軍術諸派を見て鹿兒島藩の受けし影響を觀察し中川流甲州新流御家流の三者を和蘭陀流を合せて獨得の流儀を作れりこして戰術編隊の有様を精密に解釋しこれが特長として都城あること、軍役重きこと、騎馬の歩兵に比して著く少きことを述べ、郷土制度の特殊な點をあげ又武士が多く地方取なりし事が藩の財政に餘裕を生じ維新の運動に有利なりしことを説かる。

●支那學會

大會 昨年十二月十二日午後一時より京都帝國大學樂友會館にて開催左の講演あり。

一、支那古代の土器に就いて 文學博士 濱田 耕作君

支那古代の土器は鳥居龍藏博士や余も屢々發掘したることあり、近年アンダーソン氏が河南澠池縣仰韶村、不招寨、同河陰縣池溝寨秦王寨に於ける發見その他盛京省錦西縣沙鍋屯甘肅青海地方の發見品によりて見るに素焼にして原始的なる鬲系のものに彩色ありて波斯テッサリア、バヒロンのものに類似するものとの二系ありこは第一系が本源ならむが彼の河南彰德府小屯子の殷墟のものは白土雷紋にして更に別派のものなるが如し。

一、孫德謙氏の駢文説 文學博士 鈴木 虎雄君

氏は浙江仁和の人、王國維氏や張采田氏の友人にして諸子通考、漢書藝文志舉例、六朝麗指等の著あり、六朝駢文は整暇なりて駢文散文合一説を主張する學者なり

一、支那の宦官に就いて 文學博士 桑原 隲藏君

支那宦官の起原は甚だ古くして早く周禮官秋に墨者使守門。劓者使守關。劓者使守圉。宮者使守內。ミ見え齊の豎刁、晋の勃鞞以來皆政事に參與した。隋代宮刑の廢止後は、一、志願者、二、死罪輕減者、三、異族の俘虜及奴隸、四外國の貢進によりて宦官を置きたり顏氏家訓勉學篇所見

の四鵬鸞の如きは實に外人出身の一例ミす、元以後之を火者ミ稱するは印度の *Fire* なる語より來由す、大體より見て唐より明代までの宦官は福建人が多く明末より清朝は直隸省の人が多く直隸の河間府は清朝時代宦官産地の本場ミ稱せらる。

右終りて晚餐會を開き有益なる史談を交換して午後九時散會せり、此の日來會者約百七十人近來稀有の盛會なりき。

豫餞會 本年二月五日午後二時半より京都帝國大學々生集會場南室にて大雪の中に開催先づ左の講演あり。

一、蒙古の大理遠征に就いて 文學士 杉本直治郎

この遠征が史上如何なる意味を持つてゐるかを詳かにするに當り、先づその史實を跡づけねばならぬミなし、それには遠征の主客兩體を明めて置かねばならぬが、問題になるのはその客體たる大理の支配種族に就いてあるから、これが決定を研究の第一歩であるミして、仔細に考證を試みてそのタイ族たることを論證し、更に該遠征の動機經過結果、影響より、進んでその史的價值に及ばむ

まして論を結んだ。

●大日本史料第三編發行

大日本史料の發行所なる東京帝國大學内史料編纂係では先年事業の擴張と共に新たに第三編部を増設して堀河天皇の應徳三年から御烏羽天皇の文治元年迄百年間に亘る平安朝末期の史料編纂に従事中であつたが、昨年其第一冊を發行した。本書は應徳三年十一月から寛治四年十二月迄を収めて居るからこれに據つて我國最初の院政なる白河上皇の院政の組織と後三年の役とを見るこゝが出来来る。材料の中には其主要部分を占めた後二條師通夜の如き近衛家所藏の師通の自筆で流布本には缺けて居るものが採録されて居り、又挿圖には八幡太郎繪詞の外に、製作年代の明記された最古のものとしての正倉院聖語藏御物の成唯識論や高野山金剛峯寺所藏の涅槃圖の如き我文化史上貴重な遺品も收められて居る。本書は菊判千三十二頁であるが爾後毎年千頁程のものを一二冊發行の豫定で定價は各冊金七圓、此際發行所に申込みば特に本編文の豫約の需にも應ずるこの事である。

會 報

●正 誤

前號二三頁七行 莊民の生活(再び)の下(上)を削る

●寄贈交換圖書

滿洲舊蹟志 下篇 南滿洲鐵道株式會社

日支交通史(上)木宮泰彦氏著 著 者

國學院雜誌 三二の一二、三三の一二、國學院大學

商業と經濟 長崎高等商業學校研究館

龍谷大學論叢 二七一、二七二 龍谷大學論叢社

人類學雜誌 四一の一二、一二、四二の一東京人類學會

名古屋研究 二の一、二 尾三郷土史會

民族 二の二 民族發行所

佛教研究 七の四、八の一 大谷大學佛教研究會

經濟論叢 二四の一、二 經濟學會

考古學雜誌 一七の一、二、三 考古學會

史學雜誌 三八の一、二、三 史 學 會

歴史地理 四九の二、三 日本學術普及會
通報(T'oung Pao.) Vol. XXIV. No. 4, 5 Paul Pellio

● 會 員 動 靜

● 國 入 會

京都市紫野門前町 早川方

角田 大立氏

島根縣美保ヶ關町

藤島 達郎氏

京都市上京區上御靈前通室町西

村山方

濱田 侍氏

(右紹介者 那波利貞氏)

京都市牛込區納戸町三〇

松野 重正氏

(右紹介者 田代通直氏)

堺市向陽町一三七

大北 勉氏

(右紹介者 岡村善太郎氏)

大阪市北區澤江町四丁目一〇三

赤司 健三氏

京都市外下澁谷

國學院大學國史研究室

(右紹介者 島田貞彦氏)

東京府豊多摩郡杉並町阿佐谷二二三

川崎 庸之氏

(右紹介者 島羽正雄氏)

朝鮮全羅南道光州高等普通學校

香川 嘉男氏

(右紹介者 神浦萬十郎氏)

三重縣飯南郡漕代村法田

鈴木 六郎氏

(右紹介者 大水源一氏)

京都市西六條 龍谷大學史學研究室

大野 法聽氏

(右紹介者 西田直二郎氏)

京都市青山南町六丁目一〇一

田村 準彦氏

(右紹介者 島田貞彦氏)

大阪府三島郡千里山住宅十一

横卷 茂雄氏

(右紹介者 新町徳之氏)

大阪市住吉區住吉町八〇九

維方 惟矩氏

(右紹介者 源豊宗氏)

朝鮮京城府龍山鐵道局官舎三五、澤崎方

西 健介氏

(右紹介者 玉井是博氏)

● 國 退 會

森六郎氏、長谷川余男氏、磯野實惠氏、吉田寅藏氏、佐藤惠重氏、吉村孫六氏、石原昌胤氏

● 國 逝 去

押上森藏氏、本間良三郎氏

右謹みて哀悼の意を表す